

Uターン・Iターン就農者(新規参入者)調査

氏 名(ふりがな) 元村孝太郎(もとむらこうたろう)

1. 就農場所(市町名) 雲仙市

2. 家族構成(労働力人数) 4人(3人)

3. 就農年月 平成22年1月

4. U・Iターンのきっかけ



〔青年意見発表〕



〔園児収穫体験〕

①高校を卒業して、愛知県にある自動車関係の部品工場に勤めていた。リーマンショックなどの不景気のおりを受けて周辺の人々が人員整理された。自分は引き続き勤めることができたが、人生を振り返ったとき、このままでいいのかと思ったから。

5. 農業にかける想い(なぜ農業をやろうと思ったのか、どういう農業をやりたいか)

①両親に親孝行したいと帰ってきたが、就農して3年たつと地域の現状がわかり、若い力で地域農業の維持発展に貢献したい。

6. 経営作物(主なもの、面積)

春ばれいしょ 140a、秋ばれいしょ 140a たまねぎ 70a、かぼちゃ 70a、ゴーヤ 12a

7. 作物選択の理由

地域推進品目であり、親が作っているため

8. 就農時の苦勞(どういう点に苦心したか?周囲の協力は得られたか?)

なれない農作業はきつかったが、意欲とアイデアで乗り切った。

10. 具体的な支援内容(認定就農者手続き、就農支援資金、補助事業等)

① Uターンで戻ったときに普及センター(振興局)の普及指導員からの家庭訪問があり、4H加入推進や技術支援を受け、小浜町4Hに加入した。

②これからは、耕作放棄地解消事業やイノシシの進入防止柵など活用したい。

11. 現状(生産量、主な作業体系で留意するもの)

基盤整備していない不正形で狭い農地が多いので、せまち直しなどをして作業効率を上げたい

12. 農業を行う上での楽しさ、厳しさ

生産者価格が暴落し、人件費さえ出ないときは厳しいと感じたが、仲間作りの大切さ、4Hクラブのみならず生産部会などにも出席し、多世代交流を行うことでいろいろな課題解決の方法が見つかり、農業の良さがわかった。

13. 将来の構想、新しい取組など

高齢化している地域農業者が作付けできなくなった農地を借り受け、規模拡大をしたい。

14. これから就農をめざす人たちに一言

さまざまな年代の人たちとコミュニケーションをとることで問題解決の糸口が見つかります。農業を始めるときは、いろいろな組織にも参加しましょう。